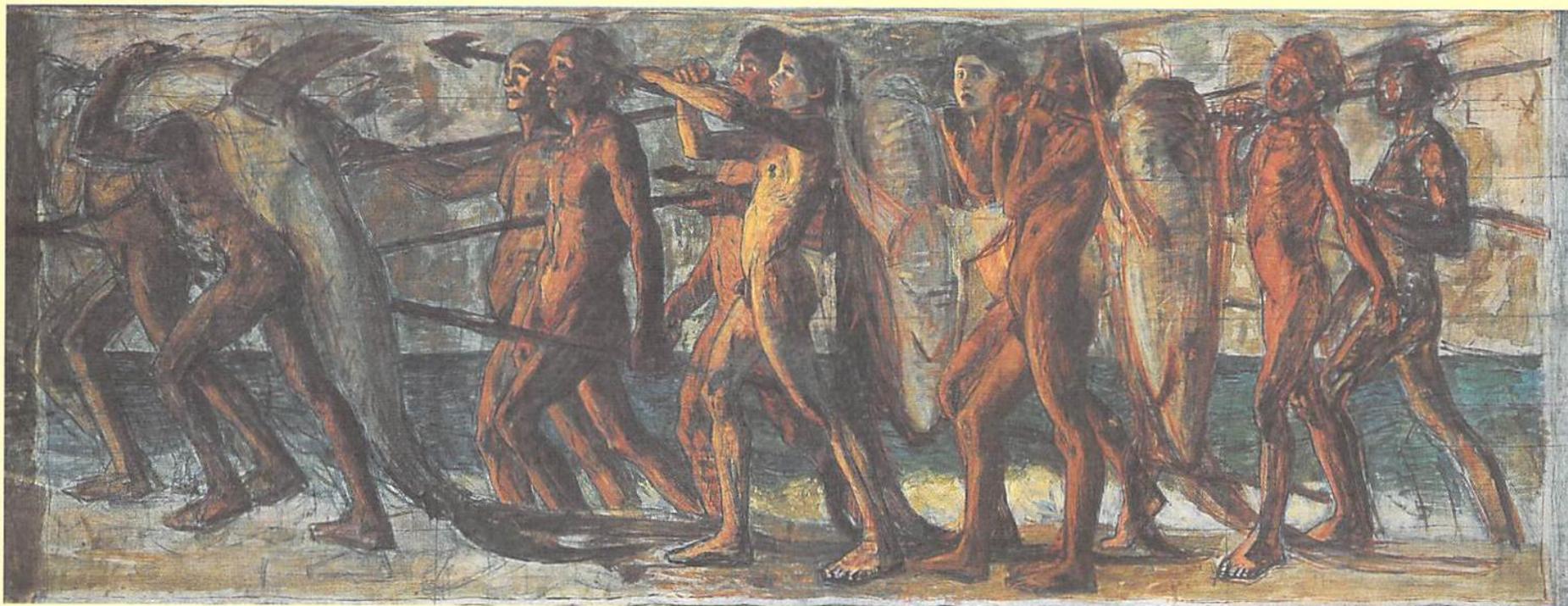


知恵袋講座№55 NPO安房文化遺産フォーラム 2012.8.28

青木繁が滞在した明治期の小谷家と富崎村

こたに ふくあき
小谷 福哲

千葉県館山市の文化財「小谷家住宅」の保存にご支援をお願いします。
青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会



青木繁《海の幸》（重要文化財・石橋財団石橋美術館蔵）



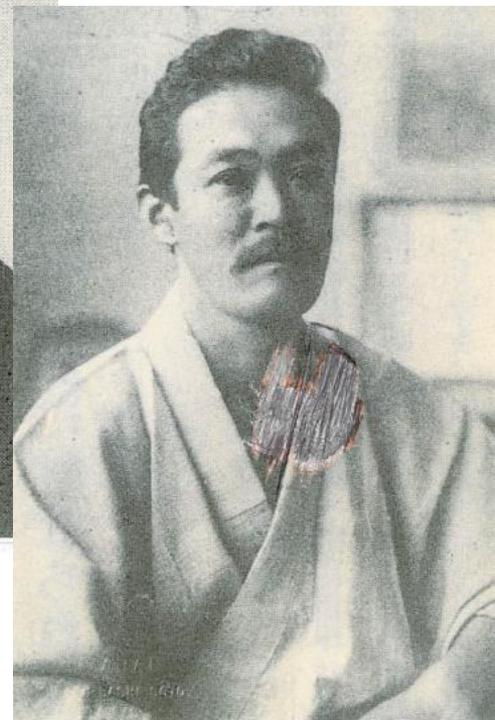
青木 繁



福田 たけ子



坂本 繁二郎



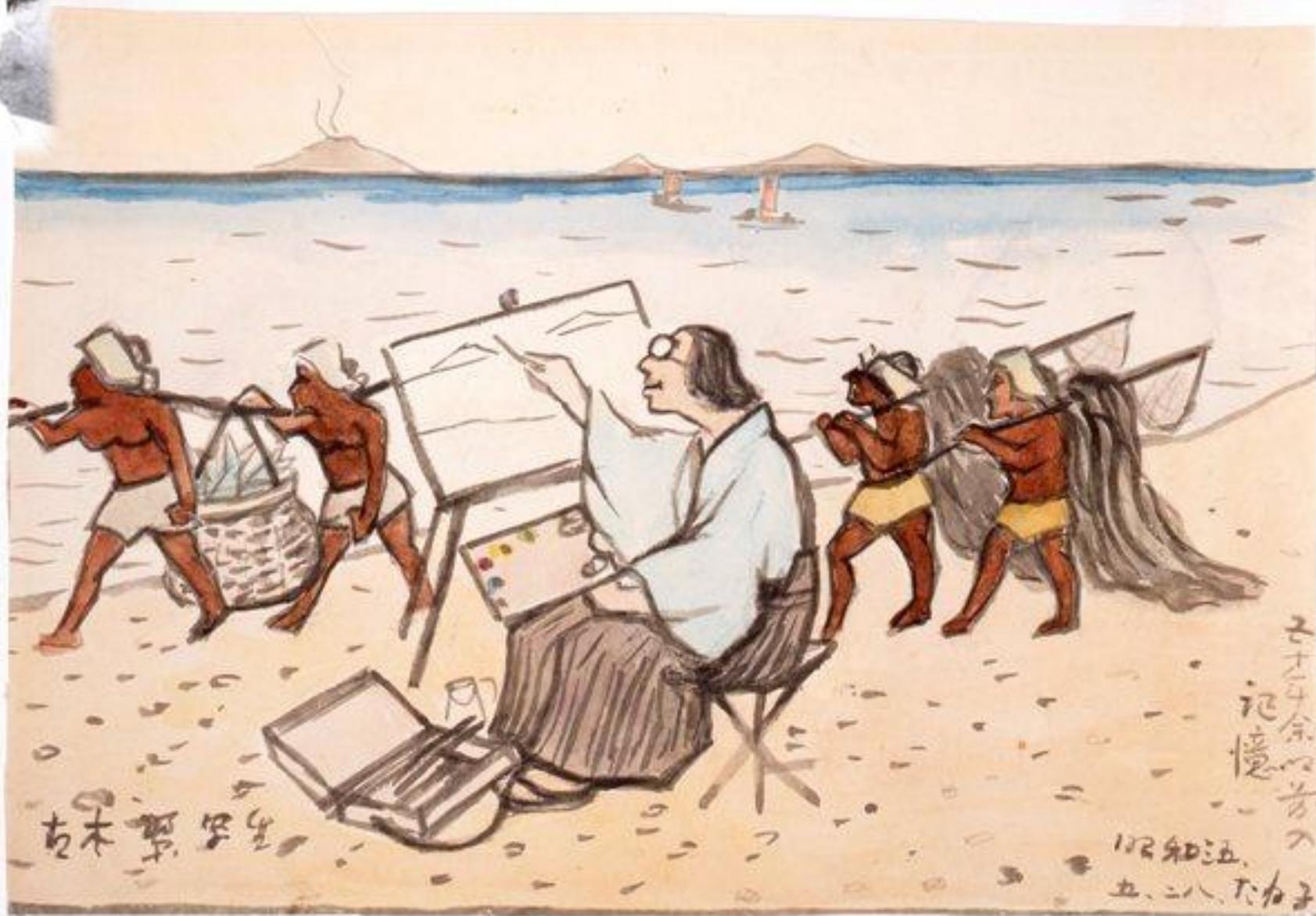
森田 恒友

明治37 (1904) 年夏
房州布良の小谷家へ逗留



《50余年前の追憶》 福田たね画

芳賀町総合情報館蔵

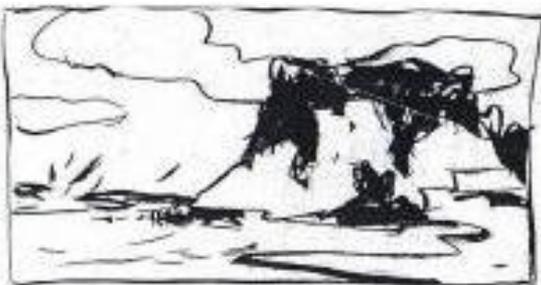




(井石濟閣檢部令司塞要嚮京東)

景全港漁良布村崎富 (所名房安)

房州富崎村字布良 小谷喜六方 青木生
福岡県八女郡三河村字緒玉 梅野満雄様



てしなにかきつて伝生様、
モ一はあまふも、一ヶ月余りなると、
この残暑には健康はどうか？
僕は海水浴で黒んぼーだよ、
定めて君は知つて居られるで
あらうがこゝは万葉にある「女良」
だ、すぐ近所に安房神社と
いふがある、官幣大社で、
天豊美命をまつつたものだ、
何しろ沖は黒潮の流を受けた
激しい崎で上古に伝はらない
人間の歴史の破片が埋められて
居たに相違ない、
漁場として有名な荒つぽい処だ、
冬になると四十里も五十里も
黒潮の流れを切つて
二月も沖に暮らして
漁するそうだよ、
西の方の浜伝ひの隣りに
相の浜といふ処がある、
詩的な名でないか、
其次ハ平沙浦（ヘイザウラ）
其次ハ伊藤のハナ、其次ハ洲の崎で
こゝは相州の三浦半島と
遥かに対して東京湾の口を
扼（ヤク）して居るのだ、
上図はアイドといふ処で
直ぐ近所だ、
好い処で僕等の海水浴場だよ、

その方の沖伝ひの隣りに相
の浜といふ処がある、詩的な名で
ないか、其次ハ平沙浦（ヘイザウラ）
其次ハ伊藤のハナ、其次ハ洲の崎
でこゝは相州の三浦半島と遥かに
対して東京湾の口を扼（ヤク）して
居るのだ、上図はアイドといふ
処で直ぐ近所だ、好い処で僕等
の海水浴場だよ、

「其後ハ御無沙汰失礼候

モ一此処に来て一ヶ月余になる、
この残暑に健康はどうか？
僕は海水浴で黒んぼーだよ、
定めて君は知つて居られるで
あらうがこゝは万葉にある「女良」
だ、すぐ近所に安房神社と
いふがある、官幣大社で、
天豊美命をまつつたものだ、
何しろ沖は黒潮の流を受けた
激しい崎で上古に伝はらない
人間の歴史の破片が埋められて
居たに相違ない、
漁場として有名な荒つぽい処だ、
冬になると四十里も五十里も
黒潮の流れを切つて
二月も沖に暮らして
漁するそうだよ、
西の方の浜伝ひの隣りに
相の浜といふ処がある、
詩的な名でないか、
其次ハ平沙浦（ヘイザウラ）
其次ハ伊藤のハナ、其次ハ洲の崎で
こゝは相州の三浦半島と
遥かに対して東京湾の口を
扼（ヤク）して居るのだ、
上図はアイドといふ処で
直ぐ近所だ、
好い処で僕等の海水浴場だよ、

引用にあたっては、原則として漢字は当用漢字に改め、かなづかいが原文のまま、また一部行替えをなした。



夫れから浜磯では

モクツ、

モク、

アラメ、

ワカメ、

ミル、

トサカメ、

テングサ、

メリグサ、

アワビ、

ハマグリ、

タマガヒ、

トコボシ、

ウニ、

イソギンチャク、

ホラノカヒ、

サ、エ、

アカニシ、

ツメツケイ(ツメガヒ)

杯だ、

まだまだ其外に名も知らぬものが

倍も三倍もある、また種族が

同じで殊類なものもあるのだ、

今は少々製作中だ、大きい、

モデルを沢山つかつて居る、

いづれ東京に帰へつてから

御覧に入れる迄は黙して居よう。

いりなまあま
つね龍児

八月二十二日

繁

満雄兄

一

2009年11月

画家・青木繁ゆかりの小谷家

市の有形文化財に指定



NPO青木繁「海の幸」会
全国の画家ネットワークが
修理費用の募金活動展開中！

館山市ふるさと納税では、
寄附金を使う事業を指定できます

事業番号No.13

「小谷家住宅の保存・活用」



青木繁《海の幸》石橋財団石橋美術館蔵

名画“海の幸”誕生の家

明治時代を駆け抜けた天才画家、青木繁の名画“海の幸”は、この館山で描かれました。館山市では、青木繁が滞在した小谷家住宅の保存・活用を支援します。

第1回 青木繁「海の幸」オマージュ展

東京展

2012年 6月11日(月)~16日(土)

午前11時—午後7時(最終日は17:00まで)

実行・主催
ざらりい サムホール

〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目10-11
日本アニメーションビル3F
TEL03-3571-8272 FAX03-3571-8273



〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目10-11 日本アニメーションビル3F

主催/NPO法人 青木繁「海の幸」会
後援/館山市・館山市教育委員会

巡回 青木繁「海の幸」オマージュ展

館山展

2012年 6月26日(火)~9月2日(土)

観覧時間/午前9時—午後4時45分
休館日/有休日曜日(7月16日)・8月17日(土)

渚の博物館 館山市立博物館分館
*渚の駅にて中庭内(観覧無料)

〒294-0036 千葉県館山市館山1564-1
TEL0470-24-2402 FAX0470-24-2404



電 車/浜内駅 館山駅西口から徒歩10分
自動車/富津館山道路 富津ICから約15分

主催/NPO法人 青木繁「海の幸」会
館山市・館山市教育委員会

後援/館山市立博物館

協力/青木繁「海の幸」誕生の家と記念館を保存する会
NPO法人芸術文化遺産フォーラム

青木繁「海の幸」オマージュ展

【治助】 富崎村長・石井嘉右衛門より感謝状

感謝状

貴下明治初年元布良村漁師頭ニ選任セラレシ
以來本年ニ至ルニ漁業閉スル諸種公務ニ従事
セラレ且明治拾貳年ヨリ貳拾貳年ニ至ル拾有余年組長
職ニ勤務シ明治貳拾貳年町村制實施ニ際シ村
區會員議負及土木衛生其他委負ニ選ハレ辛苦經營
本年ニ至ル迄其務ヲ持續シ以テ本區ノ公共事業ニ
裨益ヲ與ヘラレシ事鮮クモ殊ニ漁業ノ發達漁民
及ヒ水夫取締等其他水産上ニ對シ功績最顯著
ニシテ其間殆ド去拾有余年長キニ亘リ依テ今ハ
布良區會ハ滿場一致決議ヲ以テ貴下カ積
功績ニ對シ別紙目錄如銀盃毫組送呈シ聊カ感
意ヲ表ス

明治叁拾五年七月 安房郡富崎村長石井嘉右衛門

安房郡富崎村布良

小谷治助殿

明治35年7月

@awabunka

【治助】 珊瑚舟雇人米代書抜帳 明治16年3月



明治十六年三月調
珊瑚雇人米代書抜帳
濱吉諸役中

記

金卍四十六 島田清吉

但 四日ノ月迄

内金四十四 米 三厘
三厘 三厘

金卍四十二 島田徳松

但 三々

金卍三十三 三厘
三厘 三厘

十六年四月十日 濱吉諸役中

金卍四十六 星野三吉

但 四日

金卍四十四 朱 三厘

金卍四十七 三厘

金卍四十四 満田 三厘

金卍九十七 三厘

内金五十九 三厘

金卍七十三 三厘

り

【治助】 布良村衛生委員の認可證 明治16年9月6日

認可證

安房郡布良村

小谷治助

布良村 衛生委員治助撰

付認可候条其旨可相心得候事

明治十六年九月六日

千葉縣



當撰狀

安房郡布良村瓦拾六番屋敷

平民

小谷治助

天保八年五月十三

町邨會規則ニ仍リ安房
布良邨會議員撰舉
當撰ニ付該會議員トシ
心得ニ事

千葉縣安房郡布良村外一ノ村

明治十七年九月十三日

戸長后井嘉祐工

【治助】
 布良崎神社火災防禦
 区域議定約証
 明治18年

布良崎神社火災防禦区域議定約証

安房郡布良村

此約証は、明治十八年四月十五日、布良崎神社境内狹隘且

一、布良崎神社火災防禦区域之義府議定

約証

一、當却郷社布良崎神社、後前境内狹隘且

民家錯雜之地、接續セシカ故、明治九年十一

月村内大火災、即社殿並末社等悉ク焚

焼トナリ、以テ、未境内移遷、計畫ニ罹リ

却中、協議ヲ遂テ、明治十三年四月六日官免

又得境内地統、畑ヲ購求シ、同年四月十五日新

地境内、開墾ニ着手シ、同十五年十月、於テ

【治助】

布良崎神社境内改築費等
沿革調 明治20年

明治貳拾年起

布良崎神社境内改築費等沿革調

神田吉右工門

布良崎神社儀ハ民院ノ前キノ平垣地ニシテ常ニ不
 敬ノ心シヤリテ氏子中警下ルル処ナリ明治九年十月十日
 夜村内大火災ニ罹リ本殿拜殿末社神輿籠家
 ニ至ルモ皆烏有ニ属シ昔古有名ノ器物ト虽モ灰燼
 失消セリ如斯災害ヲ蒙リレハ全ク社殿ト民家
 ノ接近スル故ナリ依之神社地續ニ高臺ノ畑
 地ヲ購求シ境内地中ニ相加ヘ本殿ヲ之レニ安置シ
 周圍ニ樹木ヲ植付爾來災害及不敬ヲ避ケ倍々
 敬信ノ道ヲ厚フセント氏子一同衆議相決シ左記
 ノ順序ニテ工事ニ着手ス
 第一本殿境内新築費村中每户等級ヲ

明治23年度 諸漁業税帳P1. P2

明治二十三年目調査

諸漁業税帳

富壽村

明治二十三年度納額
 金三百九十兩八匁
 漁業税

内訳

市長分
 金八十五兩
 漁業手続

金三十四兩五匁
 鰯網税

金拾三兩八匁
 採藻税

金拾四兩五匁
 潜水器器械税

小計金百三十四兩八匁也

相續分
 金百四十四兩五匁
 漁業税

金拾七兩五匁
 青串魚網

小計金百六十一兩也

右明治二十三年度配当及納額也

明治二十三年度漁業税

金二百六十四兩十四匁ノ 漁業手続
 但三年度より金三十四兩六匁五匁ヲ減シタル也

内訳

市長分
 金百六十四兩八匁
 内金三十四兩六匁五匁ノ類ノ配当金拾四兩五匁

差込金 百二十四兩十四匁八ノ

相續分
 (金百七十一兩) 三年度分

由減額手配等三十四兩

差込金 百四十兩

潜水器械
 金拾四兩五匁也

青串魚網

金拾七兩五匁也

内訳

金四拾匁也

- 島田太郎
- 満井熊吉
- 神田源藏
- 吉田八平
- 黒川佐助
- 木高利左衛門
- 島田甚七
- 木高紋右衛門
- 小谷長三郎
- 豊寄藤次郎
- 黒川熊治
- 小宮惣八
- 木高源之丞
- 黒川卯之助
- 青木文藏

明治25年 漁業稅採藻稅負擔額

明治廿五年 漁業稅採藻稅負擔額

一等地引 六町 一張 破根一張存六町 相續

二等地引 四町四 五張 湧十一張存四町 相續

三等地引 拾四町六町 九張 罾一張存四町五町 相續

四等地引 四町五町六町 五張 片掛一張存五町六町 相續

潛水畧城 拾四町 一張 一町十四町 相續

一等鯨 拾六町八拾町 十張 一張存四町六町 相續

二等鯨 拾四町 十張 一張存一町 相續

三等繩船 三拾九町 二十六艘 一艘存四町五町 相續

四等繩船 四拾五町 四拾二艘 一艘存一町四町 相續

小繩船 拾壹町四町 十九艘 一艘存六町 相續

棒受 五拾五町 七十張 一張存七町 相續

夏海附 八町 四張 一張存二町 相續

秋海附 三町 三張 一張存一町 相續

飛魚網 四町十町 十六張 一張存三町 相續

一等雜漁 四町四町 十一艘 一艘存四町 相續

二等雜漁 六町廿町 三艘 一艘存三町 相續

計至前百五拾五町 六拾六町 相續

採藻稅至拾三町 六拾五町 相續

總計至前百六拾九町五拾五町

及至百四十四町六町 相續
至百廿九町四町六町五町 相續

【治助】 日本赤十字社の正社員證 明治30年3月9日

日本赤十字社



爰ニ 小谷 治助氏

本社忠愛ノ主旨ニ協同

セラル、ヲ以テ社則ニ

照ラシ 締盟シテ 正 社

員ニ列ス

明治三十年三月九日



日本赤十字社總裁

大勲位功二級彰仁親王



日本赤十字社長

從二位勲一等伯爵佐野常民



【治助】 安房水産会富崎村委員の委嘱状 明治30年11月1日

安房郡富崎村

小谷治助殿

安房水産会富崎村

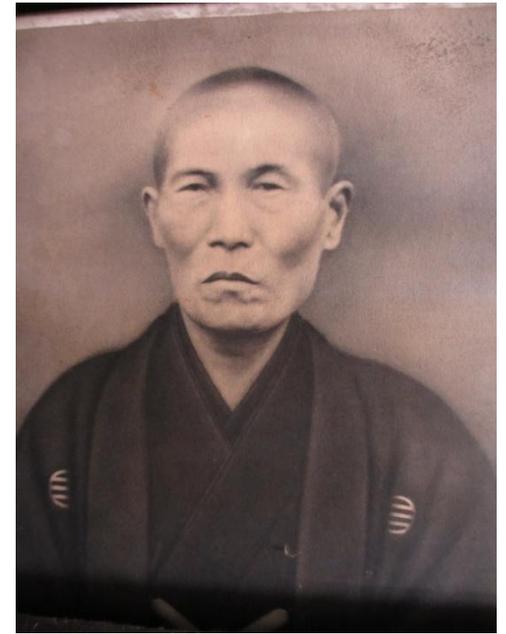
委員ヲ嘱托ス

明治三十年十一月一日

安房水産会



青木逗留時の 二代当主 【小谷喜録】



●ただにきろく (小谷 喜録) 安房郡富崎
村布良の人、元治元年十二月生、家は地方の舊
家にして祖先以來連綿相繼ぎ今代に至る、父は
治助村治に鞅掌し功勞あり、明治卅五年中富崎
村より感謝狀及び銀盃を贈られたり、喜録風に

小學校を卒へ、千葉及び東京の私塾に和漢の學
を修せり、明治十八年同廿四年迄小學校教員
の職に在り、廿五年より今日に至るまで専ら
村治に努め區會議員、村會議員、衛生委員、布良
漁業組合理事等の公職に經歷を重ねて功績あり
明治卅五年父の死後を繼ぎて漁業(鮮魚仲買)
に従事す現今前記公職を初め大日本水産救済會
布良救難所看守長及び富崎村在郷軍人會幹事を
勤む

房総人名辞典
(明治42年刊)

【喜録】 小学校授業生の俸給書 明治22年11月20日

小谷喜録

安房郡富崎尋常小學校後
業生申付月俸金六圓支給

明治二十二年十一月二十日

安房平朝茂長狭郡役所

大日本水産會會員章贈與證狀

會員章



小谷喜録君

大日本水産會會員タルヲ證スル
為本會會頭大勲位彰仁親王殿下
裁可ヲ經テ茲ニ此會員章ヲ贈與ス

明治二十四年三月一日

大日本水産會幹事長代理

從四位勲三等村田保



第三六七號

【喜録】
大日本帝國水難救濟會
看守長任命書
明治36年3月24日

小谷喜録
大日本帝國水難救濟會
布良救難所看守長任命

明治卅六年三月廿四日



大日本帝國水難救濟會

會長伯爵吉井幸藏



【喜録】 帝國水難救濟會表彰狀 明治45年4月1日

布良救難所看守長小谷 喜録

本會救難事業ニ從事シ勤勉努力
遭難船ヲ救済スルコト 百回ノ

多キニ及ヒ功績特ニ顯著ナリトス

仍テ茲ニ銀賞標ヲ授與シ永ク其

名譽ヲ表彰ス

明治四十五年四月一日



帝國水難救濟會

總裁大勲位威仁親王



関澤明清から贈られた「重要水産動植物図」



圖之物植動產水要重本日
DESSIN DES PRINCIPAUX ANIMAUX ET PLANTES AQUATIQUES DU JAPON.

圖 壹 第
1^{re} Planche.



日本重要水産動物植物之圖
 DESSIN DES PRINCIPAUX ANIMAUX ET PLANTES AQUATIQUES DU JAPON.

圖 貳 第
 II^{me} Planche.

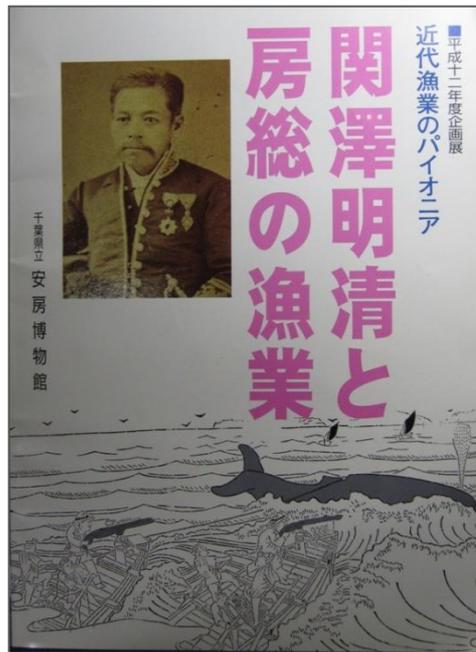
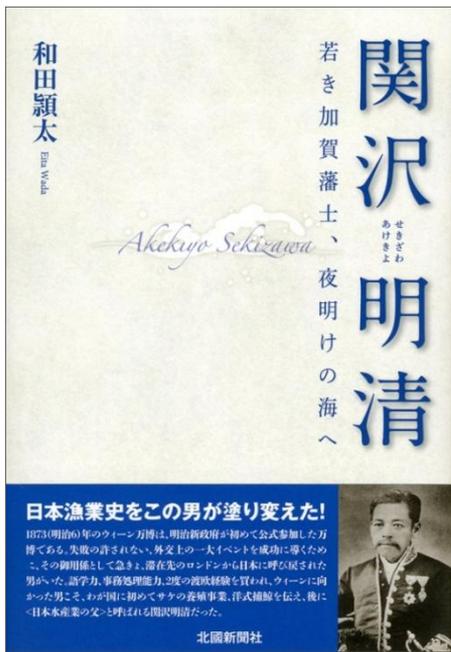
此圖係日本重要水産動物植物之圖



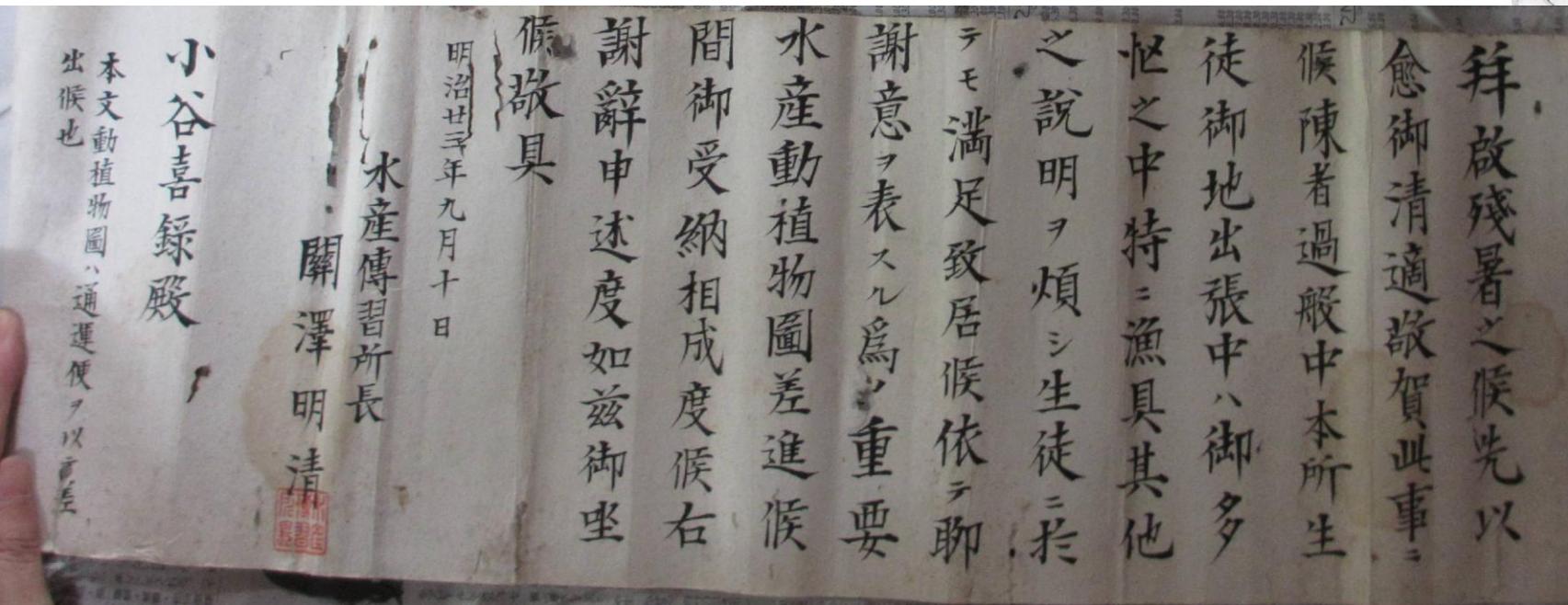
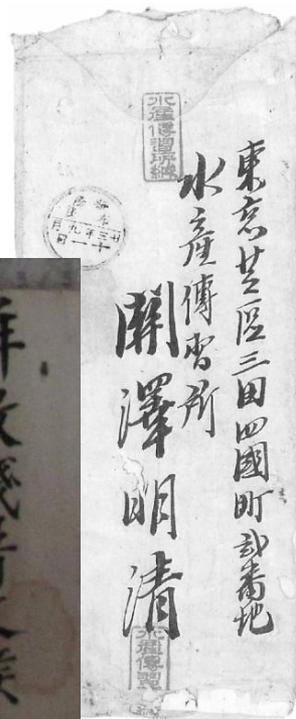
圖之物植動產水要重本日
DESSIN DES PRINCIPAUX ANIMAUX ET PLANTES AQUATIQUES DU JAPON.

圖 三 第
III^{me} Planche.

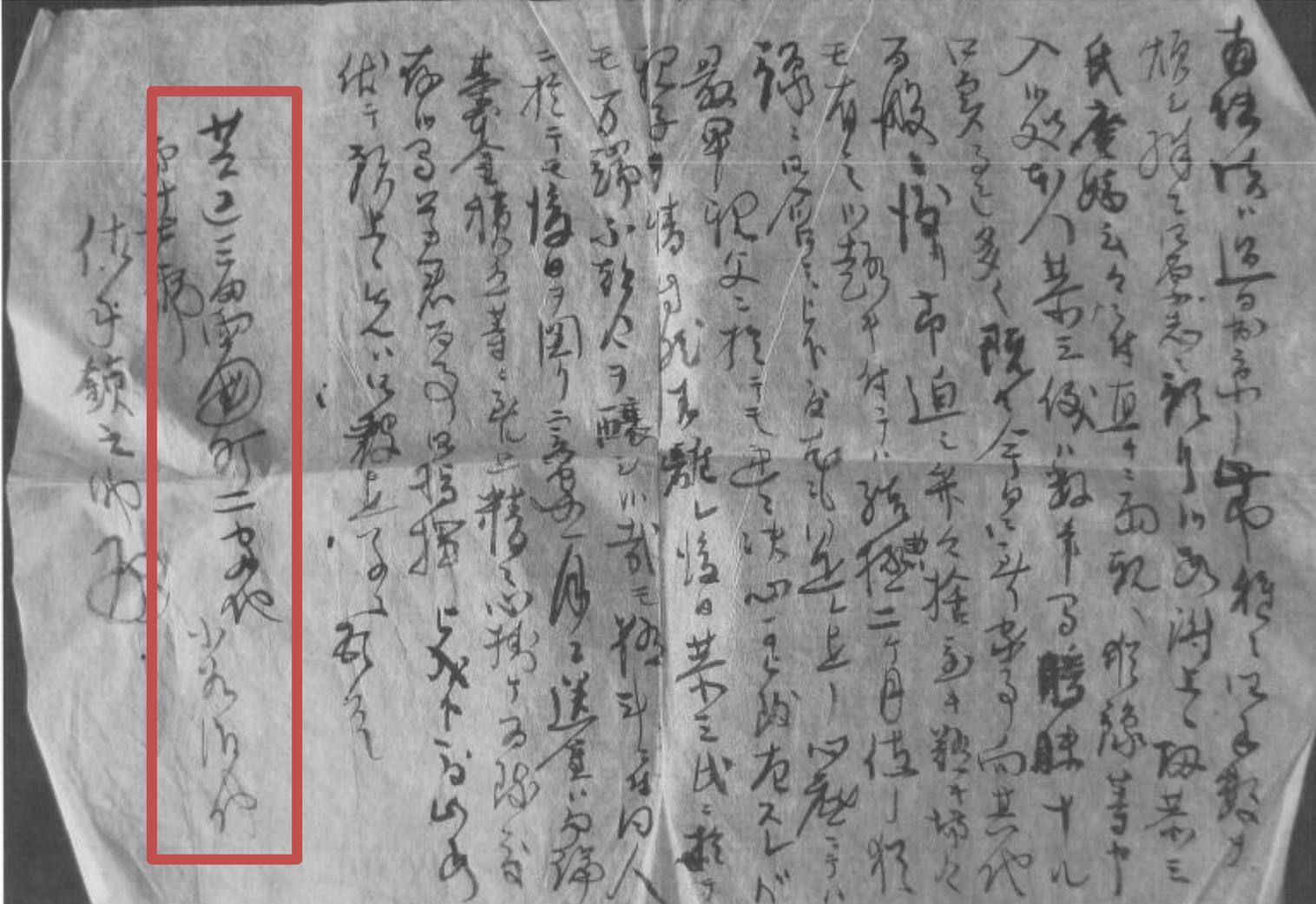
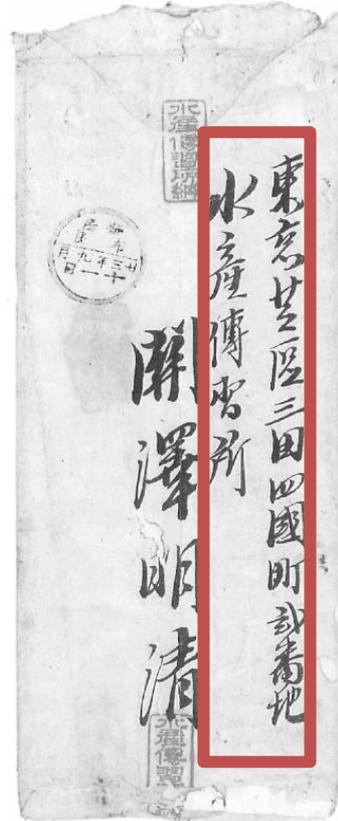




【喜録】
水産伝習所長 関澤明清
から礼状
明治23年9月10日



水産講習所の住所
 芝区三田四国町2番地に滞在していた
 小谷治助の書簡



安房国水難救済会より生命保険の勧奨 明治28年10月7日

本州沿海漁民水難実況は本年も二回及第二回報告の通り年々夥多の遭難者有之兒は父を喪ひ婦は夫より別れ老幼途に迷ひ悲哀の甚闔村を充ち其の慘名状をべからざるは各人の能く知悉する所あり之が救済の方法を講究するは漁村焦眉の急務に付去る二十六年春本會を創立し先づ第一に船体船具及其装置を改善し避難の術を研究し以て漁業の發達を圖り第二に遭難者救護に尽力しする者を賞し益々裁氣を發揮せしむる良習を造るとを期し第三に隣府縣漁業組合等に聯絡し又は管廳に稟請して居ながら各地遭難の実況を速知するの便を開き第四に各漁場に救済規約を設け難船あるときは單に船主の負擔を帰せしめず同業者又は漁業組合等にて搜索及び乗組人家族救護等の處置を担當し第五に不幸にして溺死漂流者等あるときは其遺族を救護して以て適當の後圖を為しむる等種々勸誘努力しりと雖も時運未だ熟せざるか満足する結果を得る能らざれども四郡町村組合會は大に其主旨を賛成し本年度の如きは豫業請求外若干の經費を増額し以て規模の擴張を希望せらるゝも付本會は尚進んで在京安房國人二三先輩の謀を施設方法を講究するも第五項溺死漂流者遺族救護の如きは到底一時の慈善金を以て永久に繼續し得べきものもあらざり寧ろ保險法を由り平素若干の掛金を為さしめ禍福共通の方便の便且利あるを如何か假令ば二十五歳の漁夫三年短期の保險を契約し一年危險割増金五元四三錢を厘つ、三回締止み其年期間も溺死漂流又ハ其他の病氣等にて死没するときは保險金を自田を遺族に於て受領するを得べく又不幸生存あるときは該掛金は他に入幸者の保險に充てらるゝ方法にて壯年の漁夫一年一四三〇錢の掛金は故て為し難き事業より少く少く漁場取締又は船主に於て注意あるときは其便宜は鮮少あらざるも付右保險法を奨励すべしと思考し幸に本州出身の福原有信淺田正文二氏の専ら管轄せる帝國生命保險株式會社は被保人申込者最も多く同業者中屈指の會社に付同社に依頼し歲時當地より出張し保險契約を為さしめ夫是の結果として今般同社長福原氏特社員と共に出張せられり右保險事項ハ當地方より於て未だ發達せしめ漁民保險の如き頗る至難な屬するは勿論にして其奨励誘導に於けるも忍耐を要するは申込番之事に能得共漁場役員ハ不及申重立る方々も於て保險主旨を熟知せられ時々之を指導し尚且つ率先加盟を申込み勸誘せらるゝ処ありハ他日の發達期待をへきものあらん幸し其目的貫徹し禍福共通の方法普及せば一ヶ年僅に老因三四十歳の掛金も不幸遭難者遺族の為めは老百圓の贈金となり當り本會救済の目的を達するのみならず貯蓄心の啓發風俗敦厚の一端もして國家の慶事と信し切々の情に耐え代斷村及漁場重役各位に啓告す其其其主旨を普及せしめられんことを

明治二十八年十月七日

安房國水難救済會主事

吉田謹雨



福原有信

(1848~1924)

館山生まれ。

明治5年 資生堂創設者。

明治21年 帝国生命設立。

明治29年 安房銀行設立。

(安房郡長・吉田謹爾とともに)

【治助】 布良同盟保險收支決算表 明治28年～32年

布良同盟保險金收入支出第二回決算表

收入部

金千九拾参円六銭

收入高

内訳

金百六拾四円八拾六銭

明治三十年決算残金

金貳拾四円拾五銭五厘

特別持保除料收入

但黒川保三青木松治青木國治神田辰太郎木高金助沼野久治郎等

金六百元

死者六名保險會社引收入

但木高為吉吉田啓治郎長谷川伊之助山仙治鈴木三平小谷達吉分

金四百円

同盟持死者四名保險會社引收入

但黒川龜吉黒川金藏満井熊吉鈴木豊藏分

金拾円

寄附金

但黒川保三青木國治特別保險金交付際

金貳拾五銭

島田新之助

明治廿八年より同三十三年まで保險契約漂流者人名

小谷徳松船

小谷寅吉 沼野竹松 行徳仙太郎

島田新之助船

島田勘治 黒川乙松

青木竹松 島田平八 吉田兼吉

神田辰太郎船

松浦卯之助 星野松治 森田岩吉

藤月岩松 佐野儀全郎

安西仙之助 黒川春吉 岡崎熊吉 小谷番次

吉田兼吉船

長谷川仙之助 小谷五郎吉 青木甚之助

小宮長之助船

三平米太郎 小谷寅吉

豊崎喜太郎 川上乙松 杉野甚五郎

木高金之助船

山口市松 早川兼治郎 小宮長之助

星野庄吉

満井熊吉船

満井長松 小谷松五郎 豊崎行松

【治助・鮪引繩】 第二回水産博覧会褒状 明治30年11月

第二回水産博覧会褒状

鮪引繩

千葉縣

安房郡富崎村布良

小谷 治助

中村利吉

審査官 從七位伊藤一隆

從七位金田歸逸

審査部長 從三位勲三等田中芳男

審査官長 從三位勲三等村田保

審査官長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治三十年十一月十二日

總裁大勲位功二級彰仁親王

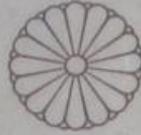


褒状



テングサ

【喜録・晒石花菜】 第二回水産博覧会褒状 明治30年11月



褒状

第二回水産博覧會褒状

晒石花菜

千葉縣

安房郡富等村

小谷喜録

松下彦兵衛

審査官 河原田 盛美

從七位 吉岡哲太郎

審査部長 從三位 惠等 田中芳男

審査官長 從三位 惠等 村田 保

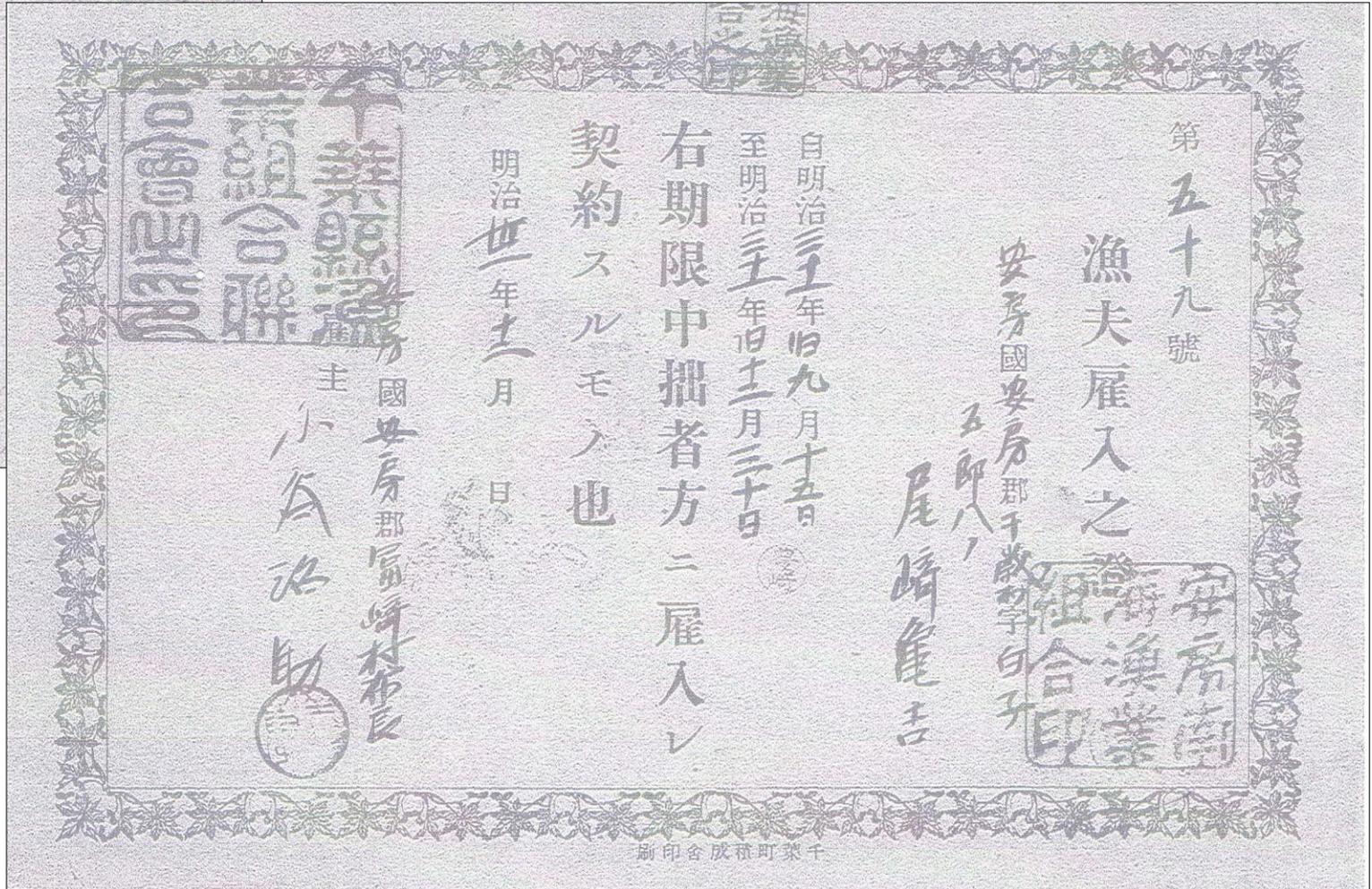
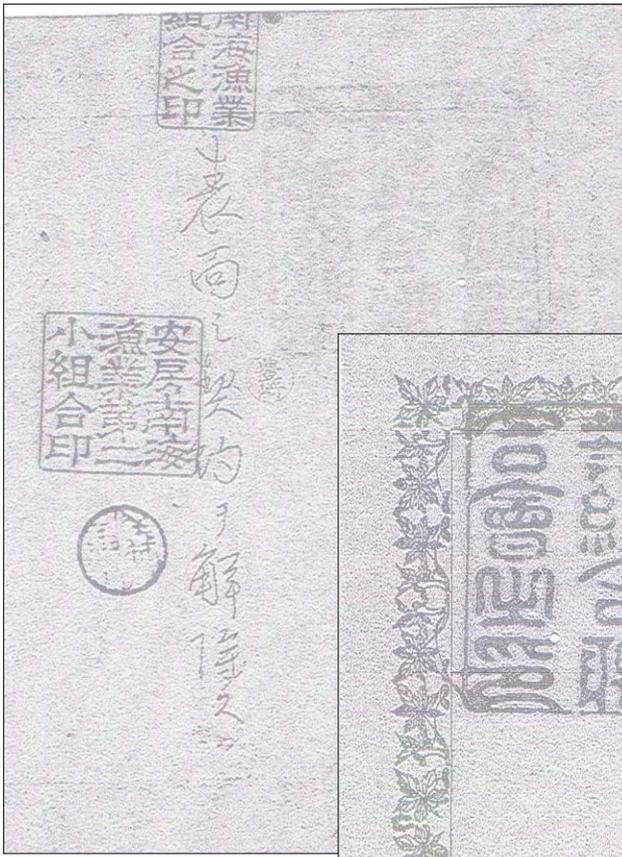
審査官長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治三十年十一月三日

總裁大勲位功二級章仁親王



【治助】 漁夫雇入之証 明治31年12月



関澤明清の渡航申請 (51歳10ヵ月)

安房郡館山町館山字
矢倉下第96番地

後の「水産講習所」と
長谷川造船(小谷実家)

20994 瀬川十力 四西	関根勇次郎 本年七月	27024 関澤明清 本年十月	田有柳 本年	
本島市本郷区 元町二丁目 由地平民瀬川 徳治印妻	栃木縣上野 郡尾野町四百 三十九番地平民	本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民	本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民	本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民
		本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民	本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民	本島市本郷区 中野軒字本丸 甲十一番地平民
市哇 小谷 府	野野 高業	解 初 解 初	川 仁	外 務
日六十月十	日廿月一十	日一月一十	日六十月九	
	28/3/28		16/12/16	

おだかとしろう

小高熹郎の遺言

- ・館山市史に漁業史を追加
- ・関澤明清を顕彰し、
館山市博物館に常設展示
- ・北下台公園を再整備

(小高記念館は
館山市館山95番地)

